

| | | | | | |
|------|---|------|----|------|-----|
| 科目 | 心理学 | | | | |
| 時間数 | 1 単位 30 時間 | 授業方法 | 講義 | 授業時期 | 1 年 |
| 講師名 | ⑤十河治幸 ③毛利智恵美 | | | | |
| 実務経験 | ⑤臨床心理士(医療機関) ③看護師(医療機関等) | | | | |
| ねらい | 看護における患者及びその家族の言動の理解、受容を心理学の観点から学習する。また学生自身の性格傾向を自己分析する機会を与え、日常生活や学生生活でのメンタルヘルスやセルフケアに活かす。 | | | | |
| 目標 | 1. 看護実習や将来看護師として臨床の場に就いた時の患者やその家族に対する基本的な心理。 的対処、また自身の看護師としてのセルフケアとメンタルヘルスの理解。 2. 自身の性格傾向を知り、自身を客観的に理解する。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回 | 内容 | | | | |
| 1～7 | 1. 前期はケースを扱ったテキスト(「ストレス分析で導く困った患者さんの対処法」を用いて、模範例や実際上の問題を挙げ臨床の場でどのような対応が可能か、また看護側の心理にも着目しメンタルヘルスについてもふれる。 | | | | |
| 8～13 | 2. 後期はテキスト「看護学生のための心理学」を中心に心理学全般を学習し、国家試験の傾向にふれる。また、心理学の知識や技法を臨床で応用するのはもちろん、学生生活や日常生活での対人関係やセルフケアにも活用できる内容を考えている。 | | | | |
| 14 | 3. 前期講義開始時と後期開始時そして後期終了時の3回、自己の性格傾向を知るためのエゴグラム(TEG)を実施、実際のカウンセリング場面でもよく用いられる質問紙型の検査である。 この3回の結果で、自身を知るきっかけとし、最終の筆記試験と合わせて「自分の分析」をしたレポートを提出し、総合評価とする。 | | | | |
| 15 | 4. 国家試験対策(心理学分野の傾向) | | | | |
| 評価方法 | その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 学科終講時に行う筆記試験90%、レポート10%総合して評価する。 60点以上を及第点とする。 | | | | |
| 教科書 | 看護学生のための心理学:医学書院 | | | | |